

月・月光の15首

伊藤一彦・選

幼きは幼きどちのものがたり葡萄のかげに月かたぶきぬ

佐佐木信綱

君よりもわれ罪深し照る月のあかきに佇ちてみ仏を怖る

川田 順

翅なき人にしあれば夜ふかく水に舟うけて月に遊べり

新井 洸

月の輪よなど涙せぬさきの世のうらみの数のわが歌をきけ

柳原 白蓮

戸をしめて月をあびたる家の前を人なつかしく我はとほるも

木下 利玄

この二夜月にまちかう待する星見つつ心はさびしさに居り

九條 武子

月きよき秋の夜なかを崖に立ち白鬼となつてほうほう飛べり

前川佐美雄

月のひかり明るき街に暴力の過ぎたるごとき鮮しさあり

真鍋美恵子

くるぐると裂けし谷間の夜のふかさ照りてとどかぬ月渡りつつ

斎藤 史

月すでに上るときけり淡淡と照れるを思ひ眼をとざす

佐佐木由幾

月光の貨車左右より奔り来つ 決然として相触るるなし

塚本 邦雄

いつかどこかで取り落したる愛憎も恋の香のする桜月夜や

築地 正子

月白く窓にのぼりてこの世にはほのくれなぬのみどりご眠る

竹山 広

月読のひかりおぼろに音もなく雪ふりつもる涅槃なるべし

前 登志夫

月下独酌一杯一杯復一杯はるけき李白相期さんかな

佐佐木幸綱